



2022年 5月 2日
第200号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集情報担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



運輸現業機関乗務員運用の見直しについて 提案受ける！

1. 実施箇所
大船運輸区・国府津運輸区・熱海運輸区
2. 実施内容
乗務員運用を見直す。
3. 周知・教育
必要な周知・教育は実施する。
4. 実施日
2022年7月1日
5. その他
2022年7月1日より熱海運輸区は小田原・伊豆統括センターとして発足予定。

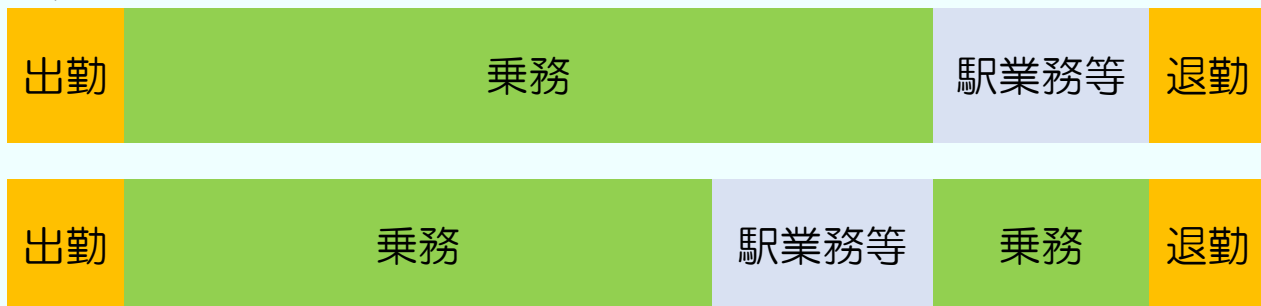
会社からの運輸現業機関乗務員運用の見直しについての説明

グループ経営ビジョン「変革2027」の実現に向け、系統を超えて新たな価値の創造を一層推進するとともに、社員一人ひとりの成長意欲に応え、活躍フィールドを拡大することを目的として、乗務員運用を見直し乗務行路内で駅業務等を行うようにする。

融合化を図る具体的な取り組みの一例として、行路の一部時間に設定される「その他時間」において、駅業務等（お客さま案内、改札業務の補助、車内点検等）を実施する。

統括センターや営業統括センター、駅への兼務・連携を通じた業務の融合化の取り組みは、全運輸区等で順次実施していきます。

●働き方のイメージ



●会社との主な議論

組合	会社
乗務員運用の見直しの目的は何か。	社員の活躍と統括センター外でも連携すること。
茅ヶ崎運輸区は何をやっているのか。	お客さま案内、駅改札、清掃、視野の拡大。
その他時間、業務どちらで示すのか。	行路内で指定する。まずは 体験してもらう 。
将来的なイメージがわからない。	現段階では駅、乗務員の連携がメイン。国府津運輸区は3か月で一周する。年3~4回でこれをやれとはならない。深度化していけば色々な可能性がある。
駅はどこに行くのか。	大船運輸区は大船駅、国府津運輸区は国府津駅、熱海運輸区は熱海駅へ行く。

安全で安心して働ける職場を実現しよう！